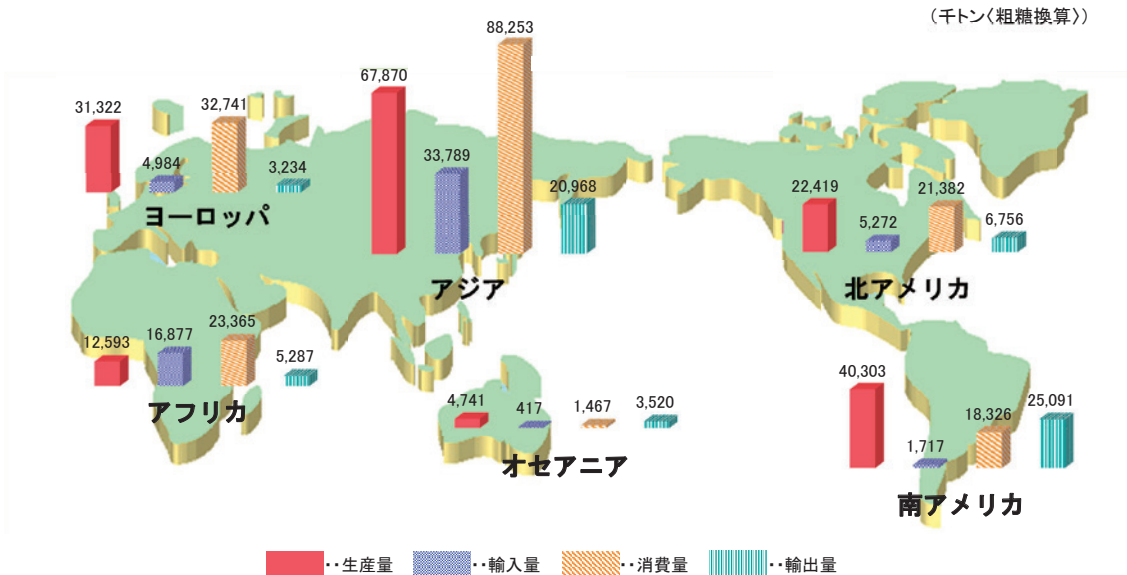


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給 (2019年12月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2019/20年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2019」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,084	160,315	56,023	164,779	56,244	50,398	30.6
2014/15	69,561	183,717	59,707	176,508	62,081	74,395	42.1
2015/16	74,395	175,955	67,776	179,661	69,077	69,388	38.6
2016/17	69,388	180,387	70,759	181,574	71,288	67,671	37.3
2017/18	67,671	195,333	67,236	180,765	69,396	80,080	44.3
2018/19	80,080	187,051	61,186	184,543	61,982	81,791	45.2
2019/20 (2019年9月予測)	81,618	181,706	60,991	184,250	63,971	76,093	41.3
2019/20 (2019年12月予測)	81,791	179,248	63,056	185,535	64,856	73,704	39.7

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2020年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002110.html

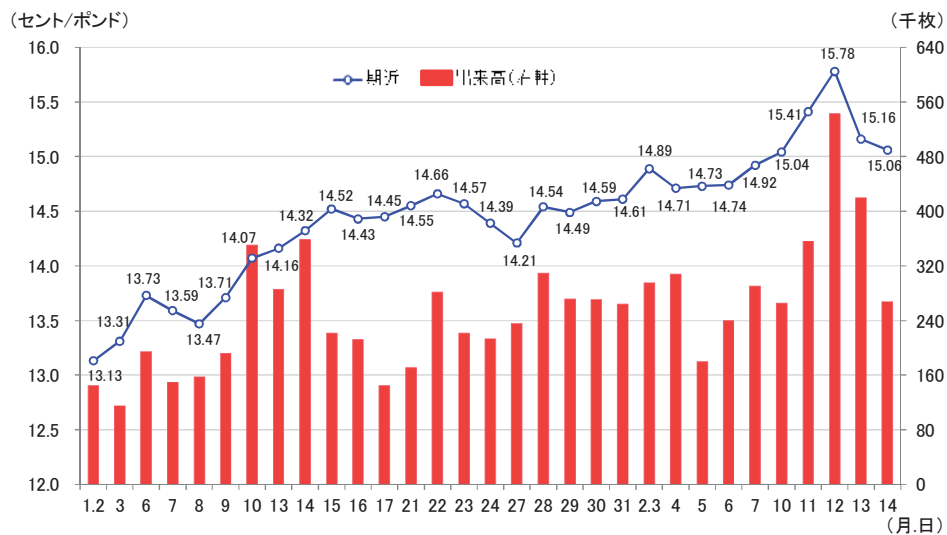
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002111.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/2～2/14）

～世界的な砂糖の減産見通しの下堅調に推移し、一時2年9カ月ぶりに15セント台後半まで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

注：3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年1月の推移を見ると（3月限）、2日は、インドの砂糖生産見通しが上方修正されたこと^{がつぎり}で1ポンド当たり13.13セント^(注1)の値を付けた。3日は中東情勢の緊迫化を受け、原油相場が急伸した影響で同13.31セントまで値を上げ、6日は同13.73セントとさらに続伸した^(注2)。7日以降は原油相場の動きを受けて反落し、8日は同13.47セントと続落した。10日は、米国農務省 (USDA) が2019/20年度の世界の砂糖生産見通しを下方修正したことを受けて同14.07セントと急伸し、1年2カ月ぶりに14セント台に乗せた。その後も相場は堅調に推移し、15日は、ブラジルの12月後半の砂糖生産が芳しくなかったことが押し上げ要因となり、同14.52セントと2018年1月以来の高値を付けた。その後小幅な下げに転じたものの、すぐに持ち直して22日は同14.66セントとさらに値を上げた。23日以降は、原油相場やブラジルの通貨リアル安に伴い下落し、

27日は同14.21セントの値を付けた。28日は原油相場が上昇したことで反発し、同14.54セントまで上昇した。その後は目立った弱材料がなく堅調に推移し、31日は同14.61セントの値を付けた。

週明けの2月3日は、2019/20年度のインドの砂糖生産実績やEUの砂糖輸出実績が前年同期を大幅に下回って推移していると発表されたことを受けて、同14.89セントまで値を上げた。4日はリアル安が影響し、同14.71セントと下落した。5日以降は、タイでも砂糖の減産見通しが報じられるなど世界的な砂糖の供給不足感から上昇傾向で推移し、10日は同15.04セントと2年1カ月ぶりに15セント台に乗せた。12日は、原油価格の上昇も相場を下支えしたことで同15.78セントまで急伸し、2年9カ月ぶりに15セント台後半の値を付けた。13日は、前日の高値を受けて売りが先行し、同15.16セントまで急落した。14日は続落し、同15.06セントの値を付けた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が上昇する。バイオエタノールの需要が上昇すると、その原料作物（サトウキビ、

てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが増えるため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が減る方向に作用する。その結果、需給ひっ迫の懸念が強まり、商品相場は上昇する傾向にある。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年2月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年1月末日TTS相場の値であり、1ブラジル・レアル=27.69円である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：859万ha（前年度比0.7%減）

生産量：6億4110万トン（同3.3%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3161万トン（同1.2%増）

輸出量：2033万トン（同3.1%減）

2019/20年度、生産量はわずかに増加するものの、輸出量はやや減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年2月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが一部で見られるため、859万ヘクタール（前年度比0.7%減）とわずかに減少するが、生育期間を通じて天候がおおむね良好で、生育が順調であることから、サトウキビ生産量は6億4110万トン（同3.3%増）とやや増加すると見込まれる（表2）。

長期化する砂糖の国際価格低迷などの影響を受けて、多くの製糖業者でエタノール生産を強化する動きが目立つものの、砂糖とエタノールの仕向け割合は前年度と同水準で落ち着くとみられることから、砂糖生産量は3161万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、同1.2%増）とわずかに増加し、輸出量は2033万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。

RenovaBioによるバイオ燃料製造業者の利益は長期的に増加する見通し

2019年12月24日、パリ協定に基づいた温室効果ガス排出量の抑制などを目的とする再生可能エネルギー法（RenovaBio）がブラジルで施行された。同法では、石油会社が石油を販売する際、その販売量から計算される二酸化炭素排出量に応じて炭素排出権（以下「排出権」）を製糖業者などのバイオ燃料製造業者から購入することが規定されている（注1）。また、排出権を石油会社に販売できるのはブラジル石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）の認証を受けた者のみとされている。同国の投資銀行によると、ANPの認証作業が滞っているため、2020年に売買される排出権の量は短期的に不足する可能性がある（注2）。一方、排出権の売買によるバイオ燃料製造業者の利益は年々増加するとみられ、2020年は5億5500万レアル（約154億円）、2030年までに660億レアル（約1兆8275億円）に達すると予測されている。

(注1) バイオ燃料の生産によって削減された二酸化炭素排出量に基づき、バイオ燃料製造業者に排出権が付与される。

(注2) 2020年2月上旬時点で認証を受けた業者は19社(うち製糖業者は11社)と非常に少なく、100社以上の業者が認証待ちの状態となっている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

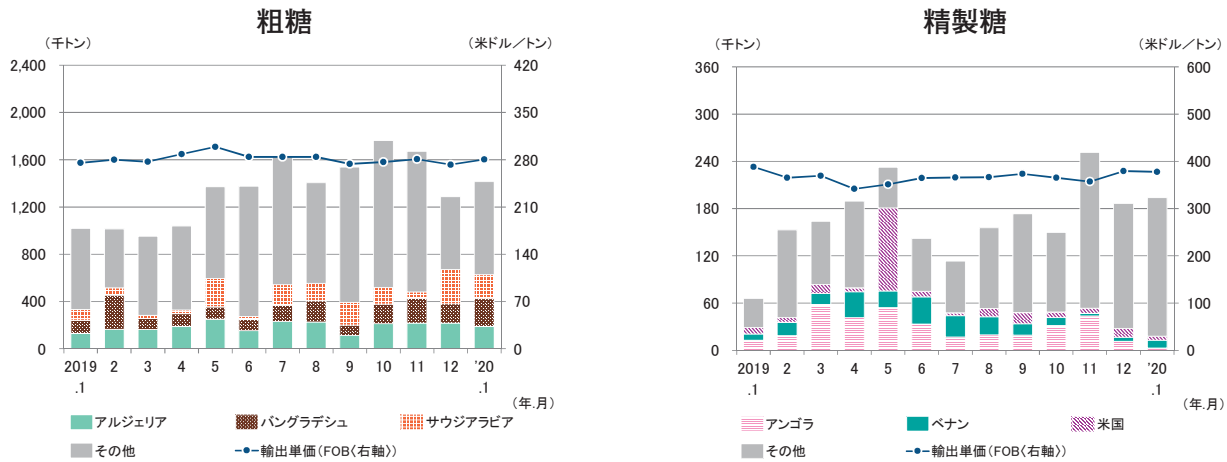
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (1月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,587	8,587	▲ 0.7	
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,825	641,100	641,100	3.3	
砂糖	生産量	41,670	41,517	31,225	31,617	31,608	1.2
	輸入量	4	2	3	3	3	▲ 9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	20,982	20,328	▲ 3.1
	期末在庫量	1,022	663	287	290	936	225.6
	期末在庫率	2.5	1.6	0.9	0.9	3.0	2.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

インド

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：461万ha(前年度比9.5%減)

生産量：3億5923万トン(同10.7%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：2954万トン(同17.2%減)

輸出量：532万トン(同3.3%減)

2019/20年度、輸出量は上方修正

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した圃場の^{ほじょう}浸水被害などが影響し、2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積

は461万ヘクタール(前年度比9.5%減)、サトウキビ生産量は3億5923万トン(同10.7%減)と、ともにかなりの程度減少すると見込まれる(表3)。糖みつなどを利用したエタノールの生産量は当初

の予測を下回って推移しているものの、前述のサトウキビ生産量の減少や長雨によるサトウキビの糖度低下の影響を考慮すると、砂糖生産量は2954万トン（同17.2%減）と大幅に減少すると見込まれる。製糖業者が砂糖相場の上昇傾向に乗じて輸出量を伸ばしつつあることから、輸出量は前月の予測から3.9%上方修正されたものの、532万トン（同3.3%減）と見込まれる。

インド首相、ブラジル大統領にWTOへの提訴取り下げを要請

インドのナレンドラ・モディ首相は1月下旬、同国政府主催の憲法公布（1950年1月26日）を祝う「共和国記念日」の式典に来賓として出席するため同国を訪問していたブラジルのジャイル・ボルソナロ大統領と会談した。両首脳は、インフラ整備や農業、エネルギー、文化、観光など15の分野において政府間で緊密な協力関係を構築することで合意した。うちエネルギー分野においては、サトウキビ

やトウモロコシの茎葉などからバイオ燃料を効率的に製造するため、双方で技術協力や情報共有を行うこととなった。

会談後、ボルソナロ大統領は2019年2月にインド政府の砂糖産業保護政策に対しブラジルが世界貿易機関（WTO）に提訴した問題をめぐってモディ首相から提訴取り下げを要請されたと明らかにした。同大統領は、二国間での協議を通じてこの問題に取り組むことに合意したと述べたものの、提訴を取り下げるかどうかは明言しなかった。

（注）会談の詳細は、令和2年1月31日付け海外情報「ブラジルとインド、バイオ燃料生産で連携に合意するも、砂糖をめぐる対立は解決の目途立たず」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002607.html）を参照されたい。また、ブラジルのWTOへの提訴の詳細は、平成31年3月5日付け海外情報「ブラジルと豪州がインドの砂糖産業への補助金を問題視、WTO提訴へ」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002411.html）を参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

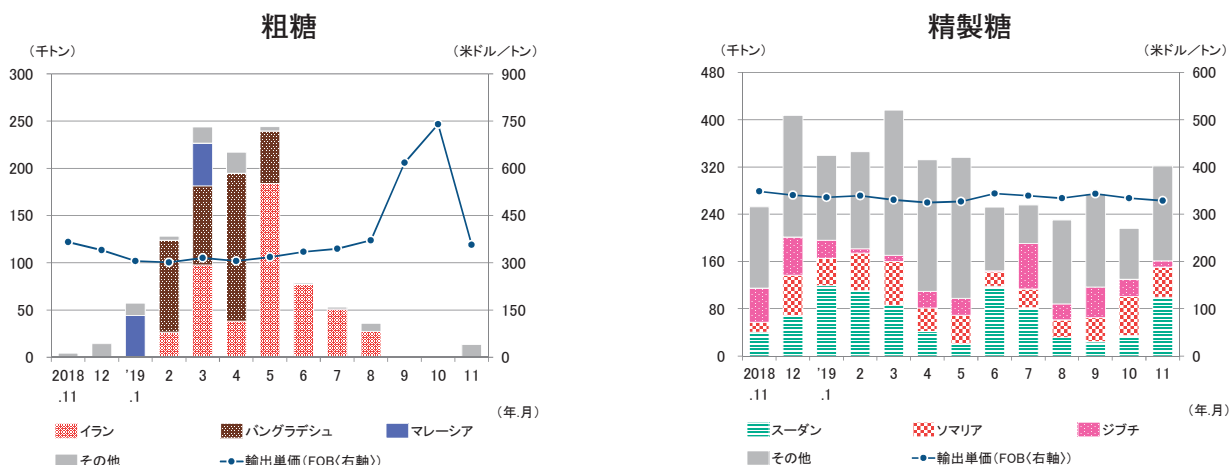
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (1月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,090	4,590	4,605	▲ 9.5	
サトウキビ生産量	323,556	408,655	402,152	365,041	359,227	▲ 10.7	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,690	29,329	29,544	▲ 17.2
	輸入量	2,536	2,307	646	800	800	23.8
	消費量	26,568	27,232	27,537	28,084	28,086	2.0
	輸出量	2,233	2,361	5,504	5,120	5,320	▲ 3.3
	期末在庫量	3,952	11,710	15,007	11,931	11,945	▲ 20.4
	期末在庫率	13.7	39.6	45.4	35.9	35.8	9.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量 (累計) 上位3カ国を表示。

中国

2019/20年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 118万ha (前年度比3.5%減)

生産量: 7769万トン (同1.1%減)

【てん菜】

収穫面積: 21万ha (同12.4%減)

生産量: 1090万トン (同6.6%減)

【砂糖 (甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1103万トン (同5.2%減)

輸入量: 499万トン (同3.3%増)

2019/20年度、輸入量はやや増加する見込み

2019/20砂糖年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール (前年度比3.5%減) とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン (同1.1%減) とわずかに減少すると見込まれる (表4)。てん菜については、収穫面積は21万ヘクタール (同12.4%減) とかなり大きく減少すると見込まれる。主産地である内モンゴル自治区で広範囲の害虫被害が発生したものの、糖度が前年度よりも高いことが収穫面積の減少を一部相殺し、てん菜生産量は1090万トン (同6.6%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1103万トン (同5.2%減) とやや減少し、その不足分を賄うため、

輸入量は499万トン (同3.3%増) とやや増加すると見込まれる。

新型コロナウイルスの砂糖消費への影響は限定的か

オランダの農業系金融機関ラボバンクは、2019年末から中国で流行している新型コロナウイルス (2019-nCoV) は砂糖消費を短期的に抑制するものの、甚大かつ長期的な影響を与えることはないと考えている。ラボバンクは、同ウイルスの感染を予防するために外食の需要が低下するものの、コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどでの購買活動は維持されることで家庭での砂糖消費は減少せず、同ウイルスの流行が収まれば景気は速やかに回復するとし、2019/20年度の中国の砂糖消費量は前年度比1%増と、同ウイルスの流行前に発表した

見通しを修正していない。万一、国内の砂糖需給がひっ迫した場合、砂糖の備蓄放出で対応できるとみている(注)。

中国最大の食品会社である中糧集团有限公司(COFCO)の砂糖部門によると、同ウイルスの影響で需要が急増した錠剤用の砂糖を製菓会社に速やかに納入するため、中国の旧正月である春節の休暇期間中も営業を続けたほか、国内の主要港に保管さ

れている砂糖を適切に流通させるなど砂糖の安定供給に尽力している。

(注) 政府は国内砂糖価格の適正化を図るため、1991年から一定量の砂糖を備蓄用として買い付けるとともに市場へ放出する砂糖備蓄制度を開始した。詳細は、「砂糖類情報」2006年8月号「中国の砂糖産業の概要～国内の需給ギャップと闘う中国政府～」(https://sugar.alic.go.jp/japan/fromalic/fa_0608a.htm)を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

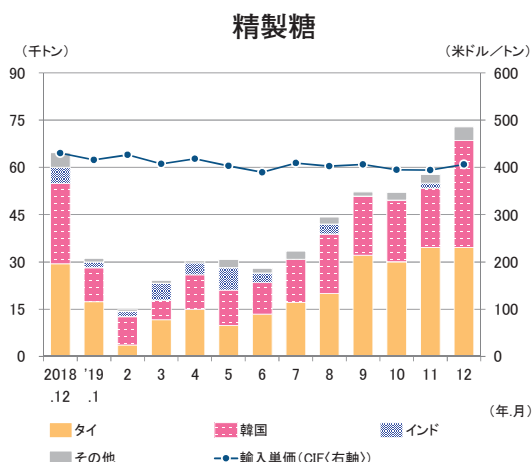
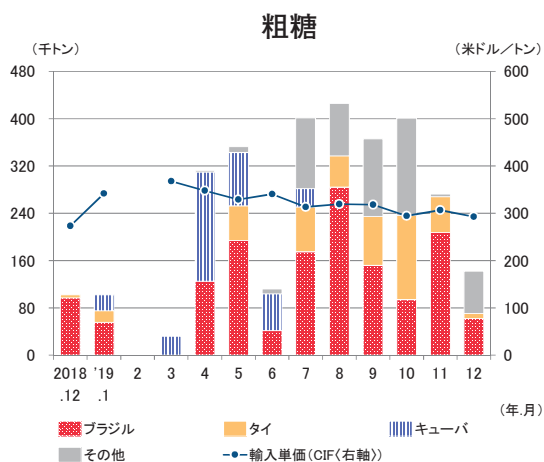
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (1月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5	
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1	
てん菜収穫面積	168	186	243	213	213	▲ 12.4	
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6	
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,030	▲ 5.2	
	輸入量	5,715	6,118	4,830	5,182	3.3	
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,522	▲ 1.3	
	輸出量	146	195	228	190	▲ 7.1	
	期末在庫量	10,689	11,345	11,064	10,563	▲ 4.5	
	期末在庫率	62.9	68.3	66.1	63.2	64.0	2.1ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

E U

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：161万ha（前年度比5.7%減）
生産量：1億1455万トン（同2.8%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1789万トン（同2.3%減）
輸出量：110万トン（同42.5%減）

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は161万ヘクタール（前年度比5.7%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1455万トン（同2.8%増）とわずかに増加すると見込まれる。

前年ほどではないものの平年より高温・乾燥した状況が続いた、EU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜生産の落ち込みが響き、砂糖生産量は1789万トン（同2.3%減）とわずかに減少すると見込まれる。生産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は110万トン（同42.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

フランスのバイオエタノール需要、2020年も引き続き増加する見込み

フランスでは、てん菜や穀物からバイオエタノールが製造されており、ガソリンにバイオエタノールが10%混合されたSP95-E10やバイオエタノール

が85%混合されたE-85などが流通している（注）。フランスアルコール製造業者協会（SNPAA）によると、同国における2019年のバイオエタノールの売り上げは、税の優遇措置やバイオエタノールの購入が可能なガソリンスタンドの増加、ディーゼルの需要低下などを背景に過去最高となり、その消費量は11億3000万リットル～11億5000万リットルと予測されている。SNPAAは、2020年のバイオエタノール需要は前年から1億3000万リットル増加し、うちE-85の消費量は、ガソリンスタンドへの普及が進むことで前年比50%増と見込んでいる。製糖工場では砂糖とバイオエタノールの生産割合を容易に調節できることから、2020年はより多くのてん菜がバイオエタノール製造に仕向けられる可能性がある。

（注）現在SP95-E10を給油できる国内のガソリンスタンドは、約2店に1店の割合まで拡大している。一方、E-85は2019年の消費量が前年比85%増の3億4000万リットルに達したものの、燃料市場のシェアは全体の約3%にとどまる。

表5 EUの砂糖需給の推移

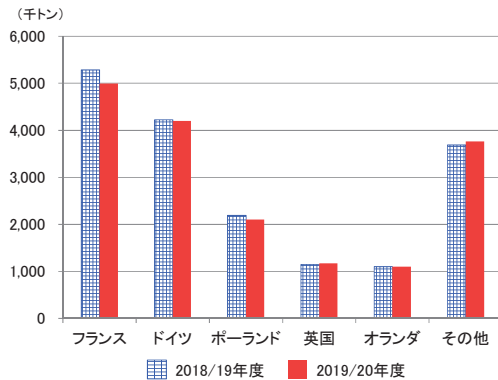
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (1月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,613	1,612	▲ 5.7	
てん菜生産量	107,986	139,453	111,425	114,685	114,548	2.8	
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,317	18,002	▲ 2.3	
	輸入量	3,117	1,731	2,530	2,621	4.9	
	消費量	19,177	19,218	19,653	19,436	▲ 1.1	
	輸出量	1,510	3,809	1,909	1,174	▲ 42.5	
	期末在庫量	2,261	2,699	1,984	1,998	1,984	0.0
	期末在庫率	10.9	11.7	9.2	9.7	9.7	0.5ポイント増

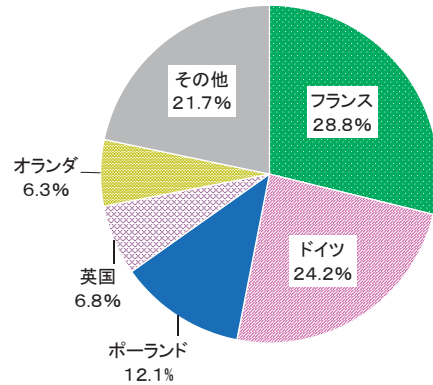
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年12月時点)



資料：欧州委員会
 注1：精製糖換算。
 注2：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。



資料：欧州委員会
 注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2020年2月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンについて報告する。

本稿中の為替レートは2020年1月末日TTS相場の値であり、1インドネシア・ルピア=0.0092円、1タイ・バーツ=3.59円である。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：37万ha（前年度比3.2%減）
 生産量：3004万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：428万トン（同9.2%減）
 輸出量：313万トン（同8.6%減）

2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともに減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は37万ヘクタール（前年度比3.2%減）とやや減少し、夏の記録的な猛暑による影響で生育の遅れが見られることから、サトウキビ生産量は3004万トン（同7.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表6）。

砂糖生産量はサトウキビの減産に加え、平均糖度が前年度を下回る水準で推移していることも影響し、428万トン（同9.2%減）とかなりの程度減少し、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、313万トン（同8.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

IA-CEPAの批准により、豪州産糖の関税は削減へ

インドネシア議会は2月7日、豪州との包括的経済連携協定（IA-CEPA）を批准した。同協定の発効は同議会の批准から60日後とみられる。IA-CEPAの発効によって、インドネシアから豪州へのすべての輸出品は無税、豪州からインドネシアへの輸出については99%以上の品目で関税撤廃が大幅削減が実現する。豪州はタイに次ぐインドネシアの砂糖輸入先国であるが、同協定によって砂糖の

関税は最大12%（従価税換算）^(注) から5%に引き下げられる。タイ産粗糖がインドネシアに輸入される際も、東南アジア諸国連合（ASEAN）物品貿易協定（ATIGA）に基づき関税が5%まで削減されているが、IA-CEPAの発効によって豪州産粗糖の関税率はタイ産に並ぶこととなる。

(注) 同協定発効前の粗糖の関税率は1キログラム当たり550ルピア（5.1円）、精製糖の関税率は同790ルピア（7.3円）。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (1月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	368	376	378	378	366	▲ 3.2	
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,493	30,043	30,044	▲ 7.5	
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,717	4,100	▲ 9.2	
	輸入量	68	29	19	20	7.0	
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	2.1	
	輸出量	4,004	3,601	3,426	3,131	▲ 8.6	
	期末在庫量	969	747	989	897	1,072	8.4
	期末在庫率	18.8	15.8	22.0	21.3	25.4	3.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：161万ha（前年度比12.5%減）
生産量：8302万トン（同36.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：991万トン（同35.9%減）
輸出量：905万トン（同13.3%減）

2019/20年度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、161万ヘクタール（前年度比12.5%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は8302万トン（同36.6%減）と

大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は991万トン（同35.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い、輸出量は905万トン（同13.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

ミトポン社、サトウキビの葉の買い取りを開始

タイの最大手製糖業者であるミトポン（Mitr

Phol) 社は、2019年12月1日から翌4月30日の期間、サトウキビの焼き畑防止のためにサトウキビの葉の買い取りを実施することを発表した。葉の買い取り価格は1トン当たり1000バーツ（3590円）で、葉の刈り取りや輸送にかかるコストは同500バーツ（1795円）程度であるため、残りの同500バーツが農家の収益となる。買い取られた葉は主にバイオマス発電の燃料として使用される。また、タイ製糖協会（TSMC）も、同協会に加盟している製糖業者の代理として農家からサトウキビの葉の買い取りを実施していることを明らかにした。タイ政府は2021/22年度までに焼き畑で収穫されたサトウキビの割合を5%以下とする方針であるが、タイ国内ではいまだに焼き畑を行う農家が多く、焼き畑に伴う大気汚染が連日報道されている^(注)。

(注) タイのサトウキビ生産における焼き畑政策については、「砂糖類・でん粉情報」2019年6月号「タイにおける砂糖産業の動向」(https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html) を参照されたい。

焼かれていないサトウキビの買い取り価格は1トン当たり1000バーツ超えの見込み

タイのスリヤ工業相は1月19日、2019/20年度

のサトウキビの買い取り価格について、焼き畑以外の方法で収穫された場合、1トン当たり1000バーツ（3590円）を超える見込みであると述べた。

工業省はタイサトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）に対し、2019/20年度に100億バーツ（359億円）規模の補助金をサトウキビ農家に支払うよう命じており、65億バーツ（233億3500万円）は資材購入費の補助として、残りの35億バーツ（125億6500万円）は焼き畑以外の方法でサトウキビを収穫した農家に対して支払われる。2019/20年度のサトウキビの期首価格は1トン当たり750バーツ（2693円）^(注)であるが、これらの補助金が上乘せされると、焼き畑以外の方法で収穫されたサトウキビの価格は同1000バーツ（3590円）を超えるとみられる。

(注) 期首価格は、農家に支払われる最低取引価格のうち当該年度の期首に決定される価格で、基準糖度10CCS（可製糖率）として決定されている。実際のCCSに準じて1CCS当たり45バーツ（162円）が加算または減算される。年度終了時に実績に基づき期末価格が決定され、差額が精算される。

表7 タイの砂糖需給の推移

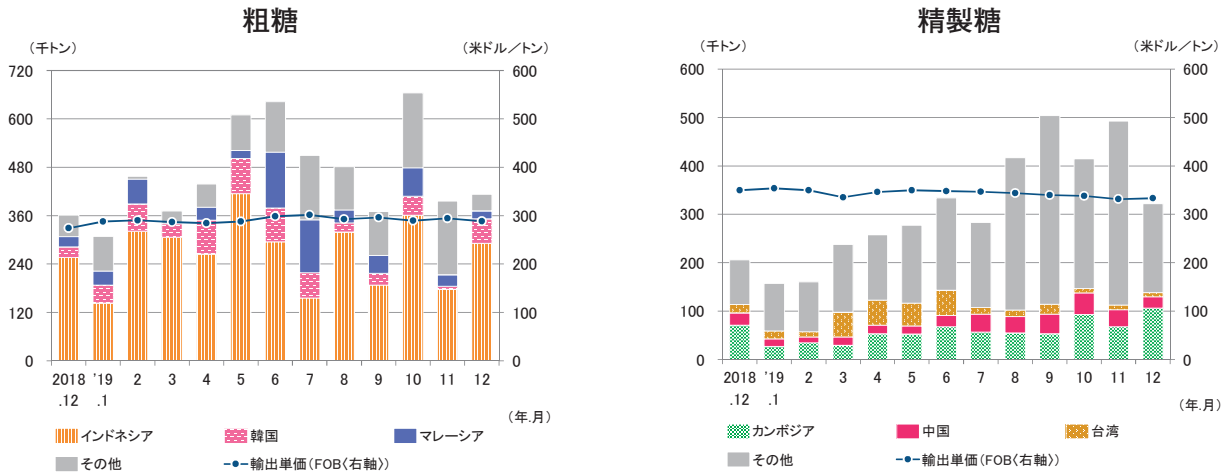
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (1月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,606	1,606	▲ 12.5
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	100,000	83,019	▲ 36.6
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	12,048	▲ 35.9
	輸入量	0	6	3	3	0.0
	消費量	3,283	3,347	3,737	3,812	3.5
	輸出量	7,393	10,077	10,439	11,091	▲ 13.3
	期末在庫量	3,951	6,119	7,402	4,550	▲ 40.5
	期末在庫率	37.0	45.6	52.2	30.5	34.1

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

フィリピン

2019/20年度(10月~翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 41万ha (前年度比0.8%減)

生産量: 2384万トン (同9.7%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量: 210万トン (同1.1%増)

輸出量: 14万トン (同31.0%増)

2019/20年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2019/20砂糖年度(10月~翌9月)のサトウキビ収穫面積は41万ヘクタール(前年度比0.8%減)とほぼ横ばいで推移する見込みである(表8)。前年度の生産の落ち込みの反動による影響もあり、サトウキビ生産量は2384万トン(同9.7%増)とかなりの程度増加すると見込まれる。

しかし、平年より降雨量が多く、日照時間が短かった影響でサトウキビが低糖度傾向にあることから、砂糖生産量は210万トン(同1.1%増)とわずかな増加にとどまると見込まれる。輸出量は、平年を下回る水準であるものの、前年度の輸出の落ち込みの反動で14万トン(同31.0%増)と大幅に増加すると見込まれる。

上院議会に続き下院議会も、砂糖の輸入自由化に反対

フィリピンの上院議会は2019年11月、砂糖の輸入に関する規制緩和を阻止する決議案を採択したが、現地報道によると、下院議会も2020年1月、砂糖の輸入自由化を行わないとする決議案を可決した。

フィリピンでは、砂糖の国内需給を調整するため砂糖の輸入量などは砂糖統制委員会(SRA)によって管理されているが、その弊害として生産性向上や合理化によるコスト削減が進んでいないことや、国内の物価上昇時に砂糖やそれを原料に使う加工食品の価格が高止まりしてしまうことが問題視されていた。同国財務省は、これらの懸念を解決するために砂糖の輸入自由化を検討する考えを示しており、下院議会の聴聞会では、その第一歩として現行よりも効率的で透明性の高い一般入札の実現に向けて検

討を進めていることを明らかにしていた。

業界関係者は下院議会の決定に対して「上院に続いて下院でも輸入自由化を阻止する決議案が採択さ

れたことに感謝する。輸入の自由化は国内の砂糖産業を脅かしかねない」と議会の決定に賛同する声明を発表した。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (11月予測)	2019/20 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	421	418	410	415	406	▲ 0.8	
サトウキビ生産量	28,052	23,975	21,745	24,247	23,844	9.7	
砂糖	生産量	2,506	2,083	2,074	2,096	2,096	1.1
	輸入量	123	304	665	437	413	▲ 37.9
	消費量	2,277	2,323	2,347	2,371	2,371	1.0
	輸出量	283	205	108	166	142	31.0
	期末在庫量	594	454	737	717	733	▲ 0.5
	期末在庫率	23.2	17.9	30.0	28.3	29.2	0.8ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2020]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。